

- ◆企画名 KU グチコレ
日 程 平成26年6月10日(火)、6月12日(木)、6月17日(火)、6月19日(木)
場 所 総合学生会館凜風館1階 ピアエリア
参加者数 78名(ピア・サポーター7名、研修生5名、一般学生66名)
目 的

グチは私たちが生きている以上、切っては切り離せない行動である。グチを言うことは、世間では悪いことと捉えられがちであり、心がそのグチの言葉によってその方向に向いてしまい、俗な言い方をすると心が腐るとも言われる。しかし一方で、グチを言うことはカタルシス効果があり心の病の予防にもつながる。要するにグチはこぼしかたが大切なのである。この点、友達に毎回グチを聞いてもらうのは気が引けるから言わないと言う人がいる。私たちは彼らのグチを聞き、彼らがより健やかな大学生活を送れるような手助けをしたい。

内 容

ピアエリアにブースを設置し、KU グチコレクションの看板を掲げる。最大利用時間は30分までに設定し、利用内容は記録用紙に適宜記録(その内容はメンバー内で共有)。全部に共通して言えることは、我々はグチを聞くことを目的としているため、メンバーとしての立場からアドバイスをすることはしない。万が一アドバイスを求められた場合は、ほっこり相談室の利用をリファーする。

効 果

- 企画の形態や内容について
- ・グチを言った後に、「すっきりした」「ありがとう」「おもしろい企画ですね」と言ってくれる利用者が多かった。
 - ・グチの量や種類など利用者に合わせて臨機応変に対応できた。
 - ・「グチを聞く」という企画自体が斬新で、興味を持ってくれる利用者が多かった。
- 参加者について
総計 34 件 (学生延べ 66 名)

改 善 点

- 企画の形態や内容について
- ・人目につきやすいところにブースを設置しており、相談者が利用するには勇気がいった。
 - ・メンバーが肘をついて対応してしまうことがあった。
 - ・「グチコレ」という名称は、他大学で使われているため、違う名称にした方が良かった。
 - ・グチは聞かず、褒めるだけになってしまった事例があった。
 - ・「利用者へアドバイスはしない」というルールのもとで企画実施したが、話の流れでアドバイスしてしまった事例がいくつかあった。
 - ・「何かグチを教えてください」という感じで、グチを強引に聞き出す形になってしまった事例があった。

感 想

- ・利用者からのフィードバックが多く、KU サポーターズの活動として、やりがいを感じた。
- ・利用者一人一人に合わせた対応が出来ていた。
- ・KU サポーターズから積極的・自発的に声かけが出来た。
- ・グチの無い利用者に対しても、「充実されているんですね」と褒め返すことで、企画に対して好印象を持ってもらえるように心がけることが出来た。
- ・驚いたり面倒そうにしている利用者もいた。
- ・「グチはありません」という学生が多く、大学生にそもそもグチや悩み事が少ないのかもしれない。
- ・勉強しない学生でも、用事があつたり話しかけられたくない場合がある。その判断が難しかった。